

IMCCD理事長 兼現地代表
高山良二の歩み

1947年
愛媛県生まれ。



1992～93年、
自衛官としてカンボジアPKOに参加。
強烈な経験を、人生観や価値観が一変する。

「まだやり残したことがある、
必ず戻ってこよう！」
遅咲きの
「人生のスイッチ」が入る。



2002年、自衛隊を定年退官した3日後に
カンボジアに戻り、NPO法人IMASに参加し、
不発弾・地雷処理事業を立ち上げる。
2010年まで在籍。

2011年、IMCCDを設立。
現在も1年の3分の2はカンボジアの
地雷処理の現場で活動している。



人間の犯した過ちを
後世に残さないために。

地雷処理専門家

高山良二



カンボジアで
共に生き、共に歩み
平和の種を育てたい。

わたしたちもIMCCDを応援しています

安倍 昭恵さん(内閣総理大臣夫人)

認定NPO法人国際地雷処理・地域復興支援の会
(IMCCD)は、カンボジアの住民による地雷処理
支援や自立可能な地域の復興支援などの活動を
されています。



IMCCDは、カンボジアの住民のことを真剣に考
え、彼らが自立的に安全で豊かな社会を築くこと
ができるよう、全力で支援されています。

私は、まだこの組織ができる前に活動現場を訪問させて頂きましたが、こ
の活動こそが国を越えた友好関係を構築し、真の世界平和をもたらすもの
と実感しました。これからもずっと、IMCCDの活動を応援しています。

向井 理さん(俳優)

人の手で埋められた負の遺産は、やはり人の手で
除去しなければなりません。



地雷処理が進み、地雷がこの地から無くなるのが
私の夢の一つでもあります。

私は大学生の頃、世界一周中に偶然
高山さんの活動を知り、地雷処理の
現場を見学させていただきました。

私が初めてIMCCD活動地のタサエン
村を訪問したのは4年前でした。

「地雷を取り除いて安全な土地をつくる
というIMCCDの活動に共感し、
1日でも早くこの村を安全にしたいと
思い支援を始めました。

いかに日本は物が豊かになっているの
かを実感しました。しかし、カンボジア
の人々の姿を見て、日本人にはない心
の豊かさを感じました。

一度の飲み会代でもできる応援です。
ぜひ若い方にもご協力いただけたらと
願っています。

カンボジア人の自立を目標に、現地の方
々と一緒になって内戦で埋められた
地雷の除去作業に取り組むIMCCD
の活動を今後も支援していきます。

中里 和佳さん
(20代・会社員)



松田 達也さん
(40代・教員)



どんなことでも、お気軽にお問い合わせください。

認定NPO法人 国際地雷処理・地域復興支援の会(IMCCD)
International Mine Clearance and Community Development

〒790-0011 愛媛県松山市千舟町7-7-3 伊予肥ビル2F

Tel.&Fax. 089-945-6576(平日10時～17時)

info@imccd.org

http://www.imccd.org



最新情報は「IMCCD」のFacebookページで!

IMCCD

検索

地雷のない未来を、 カンボジアの 村人たちと共に。



認定NPO法人
国際地雷処理・地域復興支援の会(IMCCD)

地雷なき カンボジアを、共に。



相手は、 6,000,000個の地雷。

カンボジアには内戦時に埋められた地雷が未だ400万個～600万個残されています。

地雷に汚染された農村部は復興が遅れ、村人の生活は厳しく、貧困地域でもあります。

地雷除去には費用と時間がかかるため、危険を承知で地雷が除去されないままの畑を耕し、被害にあう村人も後を絶ちません。



生きていくためには 危険な畑を耕すしか 術がないのです。

さらに、農業の近代化によってトラクターの利用が増え、対戦車地雷を踏んで亡くなる方も増えています。

そこにある地雷を1つ除去できれば、1人の命を守ることができるのに。

私たちは、地雷のない未来を カンボジアの村人たちと共につくっています。

私たちの活動地域

IMCCD活動地のカンボジア・バタンバン州はポルポト軍最後の激戦地。激しい戦闘が繰り返され、タイとの国境に沿って無数の地雷が埋設されています。



現地から寄せられた声

デマイナーの仕事で安定した生活

ソヘインさん(27才・デマイナー)

母親がいない8人家族に育つため、収入は不安定でいつも貧しい生活でした。

生活費のためと、村から地雷がなくなれば将来安全な生活ができると思いデマイナー(地雷除去員)に応募しました。

仕事は危険ですが安定した収入のおかげで、生活はとても楽になりました。今は結婚して子供を育てながら仕事を続けています。

【関連事業:地雷・不発弾処理】



日本語を身につけ仕事に活かす

チャンテンさん(21才・会社員)

家は貧しく畑仕事を手伝いながら高校まで通いました。叔父が畑で地雷を踏み、片足を失ったので、畑仕事はいつも怖かったです。

高校生の時、地雷処理をする日本人が教えていると聞いて日本語教室に通い始めました。以前、村には農業しか仕事なかったのですが、卒業後はIMCCDが誘致した日系企業に就職できて、いまは工場長をしています。

新校舎が完成したIMCCD日本語学校から私のような後輩がたくさん巣立ったら嬉しいです。

【関連事業:日本語学校運営、パソコン教室、日本企業の誘致、学校建設】



安心して農業をできるように

トンホップリーさん(62才・農家)

家の周りには沢山の地雷がありましたが、ここで生活するしか方法が無かったです。

地面を少しずつ削って地雷を確かめながら、畑を開墾しました。妻は地雷を踏んで破片が目当たり失明し、長男は対戦車地雷の爆発で亡くなりました。

自分の畑は、IMCCDが地雷を除去してくれたので、安心してキャッサバ芋を育てています。村の畑にはまだ地雷があり、これからも活動を続けてほしいです。日本の皆さんに心から感謝しています。

【関連事業:キャッサバ芋焼酎の地産産業育成支援、地雷処理】



みなさまのご支援でできること

みなさまのご支援は確実に、子どもたちの笑顔を守り、安全な田畑を増やします。



毎月1,000円

1年間のご支援で

360㎡の地雷に汚染された土地から地雷を取り除くことができ、安全な農地に変えることができます。



毎月3,000円

1年間のご支援で

デマイナー(現地の地雷除去員)1人の1か月分の給料を支給することができます。



年12,000円

のご支援で

1人の子どもがIMCCD日本語・パソコン学校に1年間通うことができ、将来自立した生活を送る糧となるスキルを身につけることができます。



税制優遇措置について

IMCCDは「認定NPO法人」です。個人・法人のみなさまからのご寄付や賛助会員費は、確定申告の際の寄付金控除の対象となり、一定の要件の下、**所得税や法人税等が軽減**されます。寄付金控除を受ける場合は、領収書を大切に保管してください。